

平成29年度 事後事務事業評価シート

事業名	自治体広域連携による「ローカルベンチャー」推進事業	担当課・グループ	作成者（職・氏名）
		産業経済課・経済グループ	主査 宮 久史

1 基本事項

事業区分	事業開始年度	平成28年度	事業主体	会計区分	予算科目			
	事業終了年度	平成33年度			町	一般	7	1
事業の性質	法令に基づかない自主的事業			条例等の有無	無			
根拠法令・例規計画等								
総合計画	基本目標	みのり豊かなあつま						
	基本施策	商工業の振興						
	施策項目	起業・新分野への進出と6次産業化への支援						
	※総合戦略	みのり豊かなあつまー商工業の振興ー起業化支援の充実						

2 事業概要 (Plan)

事業の目的	<p>【共通プログラム】全国8市町村が連携し、地域で起業する人材（ローカルベンチャー）を首都圏を中心に育成し、それぞれの地域に有意な人材を誘致する。また、ローカルベンチャーという仕事の作り方の知名度を上げ、都市部から地域へ移住する流れを作る。</p> <p>【単独プログラム】厚真町において起業家人材育成を担う民間事業体（地域商社等）を育成することに加え、町民の起業や新規事業立ち上げに関する意識を向上させる。町に関する情報発信を継続的に実施し、厚真町の認知度及び厚真町のファン数を増加させる。</p>
事業の内容（手段・方法等）	<p>【共通プログラム】全国8市町村が連携しローカルベンチャー推進協議会を設立し、首都圏の起業志望者に対する研修会の開催、イベントの開催、ローカルベンチャーの知名度を上げるための広報活動の実施。</p> <p>【単独プログラム】ローカルベンチャー育成と、厚真町のファンを形成することを目的としたファン育成プログラムの企画。ファン育成プログラムを効率的に実施するための顧客管理システムの設計。町民向けの起業研修会の実施。厚真町の情報を発信するHPにて、定期的に厚真の人材や取組を紹介する記事を発信。</p>
対象	首都圏、その他都市部の起業予備軍、町民
成果目標	<p>ローカルベンチャーによる売上規模：7億円（H32）</p> <p>新規事業創出数（新規創業数+新規事業数）：7事業（H32）</p> <p>起業家人材の地域へのマッチング数：10（H32）</p>

3 実施結果 (Do)

① 事業費

単位：千円

事業費の推移		26年度実績 (評価対象前々年度)	27年度実績 (評価対象前年度)	28年度実績 (評価対象年度)	29年度予算 (評価実施年度)	適用
総事業費		0	0	31,822	52,614	
事業費		0	0	31,357	52,149	
特定財源	国・道支出金			15,530	25,828	
	町債					
	その他					
一般財源				15,827	26,321	
人件費（@4,000*時間数）				465	465	事務事業時間配分計算表（別紙）により算定
事業費の主な内訳	旅費			297	493	
	需用費					
	役務費					
	委託料			21,560	41,656	
	負担金及び交付金			9,500	10,000	

② 実績・成果

指標名称			26年度(実績)		27年度(実績)		28年度(見込)		32年度	
			(評価対象前年度)		(評価対象年度)		(評価実施年度)		(目標年度)	
			数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位
主な活動指標	厚真町ローカルベンチャースクールへの首都圏からの参加者数	目標					0	人	10	人
		実績					0	人		人
		達成度		%		%	0	%		%
	【その他の活動(h28)】 ローカルベンチャースクールの開催：1回 町外の起業志望者向けのイベント：4回 地域商社の設立に向けた準備 等									
主な成果指標	ローカルベンチャーによる売上規模	目標					0	百万円	700	百万円
		実績					17	百万円		百万円
		達成度		%		%	-	%		%
主な成果指標	新規事業創出数	目標					2	事業	7	事業
		実績					3	事業		事業
		達成度		%		%	150	%		%
	【その他の指標】 起業化型人材の地域へのマッチング数						目標：6 実績：7		目標：10	

4 事業の評価 (Check)

評価項目	評価の視点	評価結果	説明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か？	A	全国8市町村で構成される協議会が主体となり事業を実施しており、公平性は高い。首都圏から町民までの起業志望者を対象とした事業となっており、公平性及び妥当性は高い。
有効性	期待された成果が得られたか？	A	厚真町は起業を希望する人材の間での知名度が低いと見込まれることから、他地域との連携や、首都圏での研修開催、ふるさと納税と連携した厚真町ファンの育成などは、今後の継続的なローカルベンチャースクールへの参加者数の確保及び人材の質の向上を図るうえで、事業の妥当性は高い。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か？	B	【共通】複数自治体で事業費を負担しており、事業開催に係る費用負担は軽減できる一方、情報発信力は高まっており効率性は高い。 【単独】現在は将来に向けた準備的な事業内容となっており、今後成果が出ると見込まれることから、平成28年度の効率性を見ると高いとは言えない。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等

予算	継続(拡大)	サービス	継続(拡大)	方向性	拡大
理由	新たな事業として、町内で新規事業を開始する事業者向けの支援を検討しており、実施することとなれば事業費が増加する。				
課題および改善提案	共通・単独プログラムそれぞれ多くの事業が同時に実施されていることから、これまで以上に個々の事業の接続について丁寧に戦略を練り、事業効果の一層の向上を図る。				

※予算・サービスは「継続(拡大・現状維持・縮小)」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択。

6 評価(本欄は、理事者ヒアリング・内部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください)

予算	継続(拡大)	サービス	継続(拡大)	方向性	拡大
意見	本事業は町外事業者や移住者が深く関わる事業であるため、町民の理解を得るためにも、町民向けのPRを積極的に行うこと。				

7 外部評価委員会評価結果

予算	継続（拡大）	サービス	継続（拡大）	方向性	拡大
附帯意見	—				
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・H29に実施する稲わらの利活用可能性調査で事業化の可能性を見いだせた場合、稲わらの収集が課題となる可能性があるため、本事業を活用して稲わらを収集する組織を募集してはどうか（※「里・山を活用した～事業」の評価時における意見であるが、本事業と密接に関連するため掲載）。 				

評価に対する町の考え方

- ・地域おこし協力隊による説明会を年度末に開催します。平成30年度には回数を増やすことを検討します。また、ローカルベンチャーとして厚真町で挑戦して貰いたいテーマを、町民からも募集することを検討します。
- ・稲わらの収集について、ローカルベンチャーのテーマの一つとして打ち出すかどうかについては、事業の採算性について十分に精査した上で検討します。